



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころからだの飢餓」に応える働きをしています。

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



フィリピン・セブ島北部のパンタヤン島で水の浄水フィルターを配布

**フィリピン台風
緊急支援を開始**
2・8面にレポート

フィリピン救援! 愛の絆ふたたび

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

今年も全国約20カ所で世界食料デー大会が開かれました。各大会委員会やボランティアとして奉仕して下さった方々には、紙上ですが心からの感謝を申し上げます。

今回の世界食料デーにはフィリピンからホープ児童合唱団をお招きしました。彼らの素晴らしい歌声は、多くの人たちに感動を与え、さらに彼らを通してフィリピンや世界の厳しい現実も見せていただきました。と同時に、彼らの中にフィリピンの未来への希望を感じることができました。好奇心旺盛なホープの子どもたちは、どこに行っても物おじすることなく日本人の中にどんどん入っていき、心と心で打ち解けあう姿をみて、人のつながりの大切さを私自身彼らから教えられました。

11月8日から9日にかけてそのフィリピンを思ってもみなかったモンスター台風30号が襲いました。特にレイテ島、セブ島、サマル島さらに周辺の小さな島々が大変な被害を受けたことは皆様もご存じのことと思います。死者は5千人を超えともいわれています。猛烈な台風が高潮を引き起こしたことが今回の大災害の要因です。それは2011年に私たちが経験したあの「津波」を思い起こさせるものです。すでに多くの方々から問い合わせをいただい

す。そしてインターネットなどで支援のお申し出をたくさん受けています。東北からもたくさん支援の約束をして下さっています。あの惨状を見て他人ごとではられない、自分にも何かできることがしたい、とJIFHの救援活動のためにご協力くださることを本当に感謝しております。

台風後、ホープ児童合唱団が訪問した愛知県の学校から、フィリピンの子どもの里親をして下さっている方々から、皆無事であるかの問い合わせがありました。無事であることはすぐに確認させていただきましたが、皆さんが自分の子ども、大切な仲間とってお下さっていることを深く感じました。

JIFHはすぐに2名のスタッフを現地に派遣しました。このニュースが皆様に届くころには被害の全容が明らかにされていることと思います。しかし、被害は甚大です。必要はたくさんあります。食料や必需品を求めて暴動さえも起こっています。さらなる皆様のご支援が必要です。ぜひフィリピンの被災者のために力をお貸しください。「このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また主イエスご自身が『受けるよりも与える方が幸いである』と言われたみことばを思い出すべきである」(聖書 使徒20:35)

JIFHの救援活動を応援ください

フィリピン台風の すさまじい破壊力

台風被害の調査に入った稲本スタッフによると、最も被害の大きかったレイテ島では、教会や学校が避難場所になっているとのこと。

毎週金曜日に政府からの食料の配給があるものの十分ではなく、少量ずつ食べて次の配給日を待つ状態。食糧のほかに、台風で屋根を吹き飛ばされた家々の再建のために住民が大工作業に使う工具セットが必要、また倒れた大木やココナツの木を切断して材木にするためのチェーンソーや手動のノコギリ、釘などを必要としているとのこと。当機構はこれらの要望に応えていきます。ぜひ応援をお願いいたします。



暴風と高波が襲い人的経済的被害が深刻な状況のレイテ島タクロバン (撮影: FHフィリピン)

嬉しい、美味しいクリスマスの贈り物 キングダムビジネスから特別セット

セット価格2,000円
(計4点2,175円を)
送料無料でお届け!



- フェアトレード ココア ¥600
 - フェアトレード チョコレート(6種類から1つ) ¥315
 - レギュラーコーヒー モカブレンド ¥840
 - パンの缶詰(3種類から1つ) ¥420
- チョコレートとパンの缶詰はどの味が届くかお楽しみ!

《お申し込みは》
TEL06-6755-4877 FAX06-6755-4888
web site <https://www.kbwin-win.org>
〒540-0026
大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル6階
株式会社キングダムビジネス
申込締切: 12月16日
流通事情により12月24日を過ぎたのお届けになる場合も有ります。商品は多数準備致しておりますが品切れの際はご容赦ください。

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!! 現在... 3175口

今すぐ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- フィリピン台風支援に協力します。
緊急募金として _____ 円協力します。
- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 口 (1口 500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

..... (電話)

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼NL 号

FAX・072-920-2155

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
- 愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
- 広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
- 沖縄 〒901-0156 那覇市田原3-8-1 コリ香ハウス201号
TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540

毎月、飢餓対策ニュースを皆様に届けるために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が送作業のご協力をして下さっています。

フィリピン台風 緊急支援を展開

11月8日から9日にかけてフィリピンを襲った台風30号は、特にセブ島、レイテ島、サマル島をはじめ周辺の島々に甚大な被害を及ぼしました。当機構はただちに吉田、稲本両スタッフを現地に派遣、酒井駐在員とも合流して救援に必要な情報を収集するとともに、パンの缶詰、水フィルターなど救援物資を届けています。



セブ島にほど近いバンタヤン島で救援物資を受け取る島民

悲しみの中にある人々の心に寄り添う支援を ～緊急募金に力強い応援をお願いいたします！～

11月19日にセブ島北部にフィリピン福音自由教会の救援チームと共にいった吉田の報告です。

セブ島北部のボゴ市にある教会では、家が全壊になった4家族が避難生活をしていました。その避難先の教会の屋根も半分吹き飛んでいました。私たちが到着する前日の夜に、この教会に泥棒が入り、避難していた家族は食べ物を奪われて途方に暮れておられました。早速、救援物資とパンの缶詰、水フィルターをお渡ししたところとても喜んでくださいました。セブ島北部は地域に大きな被害が出ています。ただ住居は全壊よりも屋根が吹き飛んだ家のほうが多く見られ、住人はそこになんとか止まることができています。高波や強風で大部分の住居が全壊、流出した地域に比べると復興の進み具合は早いと感じます。

バンタヤン島でも厳しい状況

セブ島北部からボートに乗ってバンタヤン島にも行きました。養鶏が盛んな地域で、たくさんの養鶏場では瓦礫の中で鶏が大量に飼育されていました。この島では、近くのセブ島やルソン島に卵や鶏を出荷していたようですが、

台風の影響で鶏がショックで卵を一切産まなくなったとのこと。そのため養鶏所では、やむなく一匹20ペソ程(約50円)で鶏を売りに出しています。この事は、養鶏で生計を立てている多くの人々や地域経済に大きなダメージを与えるものと思われます。

バンタヤン島の中のサンタフェとサンコという2つの地域を訪ねました。それぞれの地域ではバランガイと呼ばれる地方自治区ごとに管理されているのですが、残念なことに一部のバランガイでは、政府やNGO団体から提供された支援物資を平等に配っていない人がいるという住民の声を聞きました。今回、そうした不平等を受けている家族にも救援物資(米、砂糖、缶詰、水フィルターなど)を渡すことができました。

日本から持参した、汚れた水をろ過できる水フィルターはとても役に立っており、現地の人々からさらに欲しいといわれています。

(注:当機構は、この水フィルターとパンの缶詰、衣類をコンテナ便

で輸送する手続きを進めています)

新たにスタッフを派遣

当機構は現地での救援活動をさらに進めるために、11月26日にアメリカ人スタッフ、ジェニファー・マリー・ヒルをFHフィリピンに派遣、今後共同で支援を行っていくための調整を行います。皆さまからの応援を宜しくお願いいたします。(8頁にも写真)

FHフィリピンはサマル島で活動中

当機構の現地パートナーの国際飢餓対策機構フィリピンは、サマル島の2つの地域、バサイとマラブットで支援活動を進めています。バサイでは13,000世帯が被災したと推定されています。学校や保健センター、農地にも大きな被害を受けています。家を失った人々の多くは、古い教会や被害を受けなかった建物の中に作られた避難所で暮らしています。

マラブットでは7,300世帯が被災、この地域は飲料水が手に入らず、下痢の症状を訴える人が非常に多く報告されています。インフラがほぼ完全に破壊され、地域政府が基本的な食糧と支援物資を提供しましたが、FHの調査中にそれらが底をついたとの情報が政府職員から伝えられました。住民は現在ココナツの実に塩を混ぜたもので飯をしのいでいます。

- 緊急募金は、郵便振替またはクレジットカードで受付中。
- 郵便振替 00170-9-68590
- 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構 備考欄に「フィリピン台風」と記入。
- クレジットカード利用は、ウェブの <http://www.jifh.org/>
- フィリピン台風緊急募金から今すぐ募金ができます。



フィリピン・ホープ児童合唱団 指導者 トリビオ牧師に聞く

2013年10月の世界食料デーの特別ゲストとしてJIFHが招待したフィリピンの貧困地区に住む子どもによるホープ児童合唱団の歌声は、各地で聞く人に感動と共に希望と励ましを与えました。この合唱団を育成指導してこられたマニラ郊外にあるニューセンチュリー教会のエフタイム・トリビオ牧師に、今回の来日について伺いました。



世界食料デー大会で子どもたちについて語るトリビオ牧師

貧しさの中にあっても分かち合うことの大切さ

1月にメンバーの数と歌う曲など合唱団の概要を決め、団員の選考は3月に始めました。短い練習期間の中で、私が設定した高いレベルに子どもたちはよく付いてきてくれました。

3つの地域から来る子どもたちと毎週日曜日の朝一緒に礼拝し、午後に練習をしました。貧しい家庭の子どもたちですから、献金の変わりにお米を持って来ます。そのお米を調理しご近所に配って、貧しい中でも分かち合うことを教えました。そうする時神様が祝福して下さる事を体験して欲しかっ



ホープ児童合唱団の演奏は、彼らの中に芽生えた確かな希望を伝え、多くの聴衆に感動を与えました

たのです。両親にも子どもたちの歌や聖書の話聞いてもらいました。子どもたちを汚い言葉でのしるのではなく、子どもたちを愛することの大切さを話した時は、涙するお父さんやお母さんも

おられました。子どもたちが変えられ、両親も変えられていき、これが歌の土台となりました。

心が微笑むこと

両親も歌う事を知りませんし、始めて歌う子たちばかりでゼロから始めました。練習を始めた時、近所の人たちから耳障りといわれ、仕方なく私の家で始めました。問題は彼らが病気がちだということでした。栄養不足から体重が平均以下で、休む子は毎週何人かいました。その子たちを訪問し、練習に来るように励まして個人的に関わったことで私自身が本当に子どもたちを愛するようになりました。

彼らの住んでいるナボタスやマラボンはマニラの中でも最も貧しい地域です。マラボンは以前はごみ捨て場でした。子どもたちは恥ずかしがりやで、自信がありません。両親がいつも大声で怒鳴るので、子どもたちは自分は大切な存在でないと思い込んでいるのです。

子どもたちは少しずつ心を開き始め、心が開くと口も開き、歌い出しました。歌を歌う前にまず、

心が開かれなければならないのです。心が微笑まなければ、顔で微笑む事はできません。まず、心を開きそして語り、歌い始めてくれました。目が輝き、心から微笑みそして笑顔を見せてくれるようになりました。

小さな行動から

子どもたちは食事の時、いつも食べきれない程おかずを取ります。私は食べるだけ取りなさい、物事に取り組む時、自分のできる事から始めるんだよと教えました。

国を変えていくのも同じ事が言えると思います。みんなゴミを平気で捨てるので、マニラはゴミだらけですが、日本はとてもきれいです。私は子どもたちにゴミはポケットに入れて後でゴミ箱に捨てなさい、と教えました。このことを彼らがフィリピンに帰って自分のコミュニティで続けて欲しいのです。他の人がどう行動しようと、小さな行動によって、家族が変えられ、コミュニティが変えられ、国が変わっていくのだと確信しているからです。

●子どもたちの成長を助ける「チャイルド・サポーター」を募集しています。大阪事務所・世界里親会まで

新地区マチュパラで支援スタート 200人の子どもをサポートします！

2014年1月より世界里親会は、バングラデシュ西部のマチュパラ地区で新たな支援活動を始めます。この場所では、過去3年間別の援助団体が地域開発に関わってきましたが、諸事情により国際飢餓対策機構（以下FH）バングラデシュが活動を引き継ぐことになりました。



マチュパラ地区の子どもたち



女性の職業訓練の様子

子どもの就学率向上のために就学前児童への取り組みにも力を注いでいます。この子どもたちは将来の里子候補です



この地区のプロジェクト責任者は、元里子のマニ克蘭バリさん

マチュパラはどんな地区？

首都ダッカから西へ約200kmに位置しています。車で5時間ほどの距離です。

を理解していなかったり、家計が厳しいために子どもたちを働きに出させていたりして就学率は低く、特に教育環境の改善に特化した働きが必要です。女性の非識字にも取り組む必要があります。病院施設はあるものの薬や医者などのワーカーが不足しているために十分なケアを受けられず、まじないの慣習療法に頼ることも多く非常に高いリスクを負っています。子どもたちの慢性栄養失調も顕著です。収入改善の方法を見つける必要もあります。

目指すところ：教育や生活環境の改善と共に、保護者や地域の人々がよいお手本を示すリーダーに

人々の暮らし：貧困ラインとされている1日1.25ドル以下で生活する人がほとんどです。日雇い農民が大半を占め、他は小作農民やリキシャの運転手です。土壁や竹を素材にした家に住んでいます。生活用水は池や井戸を利用していますが、整備が不十分で、飲料に用いるには衛生的ではありません。
課題：人々の生活圏に学校はありません。しかし、親が教育の重要性

FHバングラデシュが行った地域調査によると、特に貧困家庭の子どもたちへの教育に焦点を当てた地域開発の必要が顕著になりました。人々の生活圏内に小学校・中学校・高校はありますが、就学率が非常に低く、小学校に入学した生徒のうち20%が中学校進学前に退学しています。両親が教育の重要性・必要性を理解していないこと、厳しい家計を補うために子どもたちを学校よりも働きにだしていることが大きく影響しています。また、「女子は男子よりも価値が低い（ない）」という誤解が根強いので、女子の就学率は特に低くなっています。FHバングラデ

シュでは、支援を受ける里子たちの出席率をチェックし、就学を阻む問題の解決に取り組みます。

女性の識字率向上を図る

保護者に対しては、前の支援団体が始めた貯蓄グループや識字教育を引き続き行います。この地域の成人の識字率は36%、そのうち女性は20%と極度に低い状態です。識字教育を進めることで、貯蓄グループから得た知識を活かせるようになります。そして職業訓練や小規模の商売を始めることを通して収入改善を目指します。また人々は健康や衛生に関する知識が不足しているために不健康で、

下痢や腸チフスなどの感染症を患う人が多くいます。正しい知識を得ることによって、昔ながらのまじない療法やにせ医者に騙されることがなくなり、生活が変えられていくことを期待しています。

地域のよきリーダー育成を

現在この地域にはビジョンと希望を持ったリーダーは存在しません。FHバングラデシュは、神様から与えられた身体や能力を備えた人々がいることに注目しています。世界里親会を通して一人ひとりがその尊厳存在に気づくこと、地域のあらゆる立場に真のリーダーが立てられること、リーダーが主体となって地域組織が形作られていくことができるよう支援を始めます。

子どもたちの教育や生活環境の改善と共に、保護者や地域の人々が良いお手本を示し、真のリーダーに成長して、自立を目指す地域となることができるように、バングラデシュ・マチュパラで行われる活動にぜひご協力ください。



バングラデシュではリキシャは重要な交通手段です

成長してもらいたいと望んでいます。世界里親会は、FHバングラデシュと共にマチュパラ地区に住む子どもたちが学校に通い教育を受けることを支援します。またその家族や地域の人たちの自立を目指した活動を進めます。

ぜひチャイルドサポーターになってください

バングラデシュ基本情報



首都：ダッカ
総面積：14万4000平方km（日本の約40%）
人口：1億5,250万人（2013年3月時点）
民族性：ベンガル人、少数民族
宗教：イスラム教89.7%、ヒンズー教9.2%、仏教0.7%、キリスト教0.3%
言語：ベンガル語（国語）
1人当たりの国民総所得：640米ドル（日本42,150ドル）
通貨：タカ（1タカ≒1.3円）※参考 500mlボトル水は10タカ程度。
出生時平均余命：69歳（日本：83歳）
5歳未満児死亡率：48%（日本：3%）
15歳以上識字率：56.8%（2011年時点）
◆教育制度
小学校：1～5年（義務教育）、中学校：6～10年生、（中卒認定試験を経て）
高校11～12年生※1学期：1～4月、2学期：5～7月、3学期：9～11月
（参照：外務省、ユニセフ）



森 祐理 親善大使
米国コンサートツアー報告

～在米日本人から私も応援したいとの声に感謝～

10月後半、日本国際飢餓対策機構の親善大使として、サンフランシスコを中心としたアメリカ西海岸でのコンサートツアーをさせて頂きました。現地では7回のコンサートがあり、日程的にはかなり強行軍でしたが、アメリカの開放的な空気のおかげでしょうか、毎日楽しくのびのびと歌わせて頂き、いずれのコンサートも主の愛と涙に満ちた恵みの時となりました。心よりの感謝と共にツアーのご報告をさせて頂きます。

10月19日(土)は、世界食料デー宝塚大会。そこでのコンサートを終えた後、その夜に羽田へ移動しアメリカへ。頭の中はまだ宝塚大会のまま、サンフランシスコの空港へ到着。日本国際飢餓対策機構の特命大使である藤川武彦さんご夫妻がお迎え下さいました。藤川さんは、「ブルドーザー」と呼ばれるほどパワフルな方で、アメリカで社長として成功され、まさにアメリカンドリームを実現された方です。今回のツアーは、藤川さんが細やかにご準備下さり、安心

して臨むことができました。7つのコンサート会場をご紹介しますと…中田重治師の北米伝道によって設立された歴史あるサンロレンゾ教会、サンフランシスコの中心地にある19番街バプテスト教会、国際結婚された日本人女性が多く集っておられるマリナー第一バプテスト教会、フェアフィールド第一バプテスト教会、この一帯では最大の日本人教会であるペニスラフリーメソジスト教会、レストラン「ミクニ」を展開されている荒井牧師のサクラメント第一バプテスト教会、日本人街にあるハミルトン・シニアセンターでは、皆さんとても感激して下さいさり何人もの方が後日教会にも歌を聴きに来て下さいました。

「故郷」に涙される来会者

主に在米日本人を対象に歌わせて頂きましたが、殆どの方が涙しながら聞いて下さいました。「故郷」を歌いながら涙で嗚咽された方々の姿は忘れられません。童謡や唱歌も交えて賛美する時、驚くほど皆様が心を開き、神様の愛を受け取って下さいました。

子どもを失った方、病と闘っておられる方、離婚された方…なんと多くの方が自らの苦しみを分かちあって下さったことでしょうか。共に祈り、共に泣き、共に神様を仰ぐことのできた時でした。

また同時に、「私も何かしたい」と声をかけられる方もおられました。「アメリカの様々な団体でなく、日本人として、日本の教会に根差した団体を支援したい」と言われる方もおられ、JIFHの働きを在米日本人の方々にもっと知って頂き、支援の輪に加わって頂きたいと深く思われました。今後も在米の方々へ、希望の歌を届けていければと願っています。



藤川特命大使と森親善大使と岡マナーシャ⑥

親善大使に就任 Manamiさん

沖縄県那覇市出身で、オリオンサザンスターのメインキャラクターとして活躍しているManamiさんがこの6月から新たに当機構の親善大使として協力して下さることになりました。



音楽を通して愛の輪を広げたい

Q JIFHとの出会いは？

2年前、空港のカフェテリアで隣の席からとても興味深い会話が聞こえてきました。飢餓の話でした。(2011年の世界食料デー沖縄大会の期間中で、森祐理さんと田村スタッフたち)しばらく聞き耳をたてていましたが(笑)、思い切って話しかけました。それが今日につながっています。あの時勇気を持って話しかけてよかったと思います。

Q Manamiさんはその後、東京事務所で開催された勉強会にも積極的に参加されて、開発途上国の飢餓や貧困に対する理解を深められたそうですが。

はい、私も何かしたいと思う気持ちが強くなっていきました。今まで多くの挫折や山や谷を経験してきましたが、たくさんの人々に支えられてきました。今度は自分が誰かのために何かしたい。ひとりひとりが力を合わせていけば世界は変わっていくことを、音楽を通して一人でも多くの人々に伝えたいです。愛の輪が広がってJIFHの働きにたくさんの方々が関わって下さることを祈っています。



Manamiさんは世界食料デー沖縄大会の3カ所(宮古・八重山・久

米島)の大会で、そのような気持ちを込めて書き下ろした曲、「愛の輪」も披露しました。(「愛の輪」はYou Tubeにアップされています。)どの大会でも明るく軽快に、手を挙げて横に振ったり手をたたいたりして会場を盛り上げました。また話されたエピソードは一人一人の心をつかみ、参加された学生からも「世界の飢餓の現状に興味を持ちました」「周囲の人へ伝えていきたい」、などのコメントが寄せられました。

親善大使のManamiさんの歌声を通して、これまで継続して協力をして下さっている方々に加えて、若い世代の人たちへの働きかけに活躍して下さることでしよう。



11月沖縄と東京でのワンマンライブ会場ではJIFHパンフが配布されました

2013食料デー沖縄大会



宮古島市では、(株)まるちくタクシーさんが数年前から各車にハンガーゼロ募金箱を設置して乗務員とお客さんの協力を募って下さっています。今回いっぱいになったその募金を贈呈して下さいました。(写真提供：宮古島市・宮国忠広氏) また昨年の沖縄の大会に参加されたManamiファンの藤平さん⑧が、1年間、開発途上国の人々を覚えて貯めた募金を届けるために千葉から来て下さいました。

何も見えない場所で立ち止まる
悲しみにくれた誰かが明日をおきらめる
この夜の終わりは誰がくれるの?
愛の輪 ひとりじゃ届かなかった
空に今は手をのびせるよ あなたとなら
愛の輪 ひとりじゃ届かなかった
空に未来を描けるよ あなたとなら
(愛の輪/Manami)

「Manami」沖縄県那覇市出身、学生時代を東京で過ごし2008年世界的プロデュース・ファルル・ウィリアムスと世界的デザイナー・INGO主催のSTAR BAPT SEVEN CHでクラウンリを受賞。歌唱力で高い評価を得る中、沖縄を代表する女性シンガーとして、さらなる飛躍が期待されている。